

令和7年度地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業

医療現場の業務DXに資する AI人材育成に向けた学科転換事業

実証 検証委員会

令和7年10月24日14:00～
15:30

説明資料

実習で育成すべきポイントについて

これまでの合同委員会・分科会では出された意見を整理して、生成AIでは代替できない診療情報管理士の6つの専門性カテゴリーについて抽出

1 現場理解と文脈把握力

4 課題を発見・構造化できる力

2 専門知の統合と翻訳能力

5 倫理的・法規的判断力

3 共感的コミュニケーションと調整力

6 現場改善と継続的学習姿勢

生成AI関連授業だけではカバーしきれない項目が多い

本日の主な目的「現場での実習を通じて育成すべきポイントを明確にする」
(次年度以降の実習に反映させる)

前提: AI人材の観点からの人材イメージ

バックオフィス業務・医療事務業務の効率化について、AIを活用(1)して、診療情報管理士として必要な知識・情報から医療現場のニーズに基づく改善プロセスの実践(2)を企画・実施できる人材

育成像と教育要件(仮説)	該当するカリキュラムの変更・追加部分
<p>(1) AIを活用 【主に生成AI】</p>	<ul style="list-style-type: none">医療システム運用に向け、まずは業務効率化の観点から、AI技術を導入・活用できる➤ 業務改善プロセスでのAI技術の活用AI活用に関する自己学習を続けるための基礎知識・素養が身についている➤ 業務内へのAI技術の導入 <ul style="list-style-type: none">IT・AIリテラシーデータ分析・統計学(データサイエンス)医療情報技師対策授業(プログラミング、ネットワーク構築、データベース管理、セキュリティ対策等)実習のアップデート
<p>(2) 改善プロセス の実践</p>	<ul style="list-style-type: none">医療現場と情報技術の橋渡しをすることができる医療現場の業務分析と改善プロセスの考え方を習得している <ul style="list-style-type: none">IT・AIリテラシー医学的知識、専門用語コミュニケーション実習前後指導等 <ul style="list-style-type: none">業務改善に向けてデータを用いて検証しながら進めることができる(なぜそういえるか、説明できる) <ul style="list-style-type: none">データ分析・統計学実習のアップデート

現場理解と文脈把握力(現場を読む力)

生成AI等の導入や業務効率化には、病院内の業務構造と人の動きの把握が前提。受付・会計・診療記録など業務全体の流れの理解がAI出力活用の鍵。

育成項目

- 現場文脈の理解力
- 業務間の因果関係の把握力
- AI活用前提条件を判断できる力

専門知の統合と翻訳能力

生成AIによるアウトプットをそのまま共有するのではなく、医療用語・診療報酬・統計・システム等の多分野を横断し、現場へ”翻訳”する橋渡し役が必要。経営・臨床・ITを跨ぐ人材としての役割が求められる。

育成項目

- 分野横断的な理解力(医療×情報技術、医療×データ、医療×経営、医療×●●)
- チーム内での知識共有の促進(生成AIや情報技術に関する知識を含む)
- 専門性に基づく翻訳・説明力

共感的コミュニケーションと調整力

医師・看護師・患者など多職種間での調整と説明責任が不可欠。AI導入は”伝え方”と”橋渡し”が成功要因。共感的理解に基づく協働姿勢が重要。

育成項目

- 説明責任力・共感的対話力
- 多職種間協働スキル
- 合意形成につなげる調整力(主に、診療情報・AI・DX技術等の導入、業務改善など)

課題を発見・構造化できる力

AIは問いに答えるが問いは立てない。医療現場での非効率や課題を見つけ、構造的に捉えて改善提案できる力が求められる。実習では現場の構造理解から課題を抽出することが重視される。

育成項目

- 課題抽出・構造化の思考力
- 問題設定力(Whyを問う)
- 課題を共有可能な形で言語化する力

倫理的・法規的判断力(倫理・安全を守る力)

AI依存はデータ流出・誤出力のリスクがあるため、個人情報・関連ガイドライン・個人情報保護法の理解に基づく行動が必須となる。データ活用の可否ラインを判断できる人材が求められる。

育成項目

- 情報倫理・法規遵守判断
- 倫理的ジレンマに対する判断過程
- リスク認識と説明責任の履行

現場改善と継続的な学習姿勢(継続学習と改善推進力)

AI活用には「実装→改善→再設計」の循環思考が必要。実際には、医療現場ではRPA・AIが導入済みでも、使いこなせていない事例も多い状況。技術や社会の変化に応じて業務改善等をリードできる継続的学習者の育成が求められる。

育成項目

- リスキリング・自己更新能力
- 現場改善の推進姿勢
- フィードバックを通じた成長意欲

意見交換

「生成AIを活用できる診療情報管理士」が実習を通じて身に付けるべき項目のなかで、

- 1
 - ・重要だと感じる項目やその理由は。
 - ・足りない項目はないか。
 - ・育成項目を達成するために、どのような実習内容が必要か。

「生成AIを活用できる診療情報管理士」の実習は、これまでとは異なる新しいプログラムになると想定されるが、新しい実習の企画・受入を行う際に、病院側で障壁となりそうなことはあるか。

(組織内の意思決定、組織間の手続き、実習の受け入れ体制 など)